

「改訂新版 気象予報士かんたん合格テキスト<学科専門知識編>」
正誤表 改訂新版 第1刷

技術評論社 書籍編集部

書籍の内容に誤りのあったことを、本書をお買いあげいただいた読者の皆様および関係者の方々に謹んでお詫びいたします。

(2020年10月20日更新分)

p.293 上から3行目

誤	(b) は誤り。
正	(c) は誤り。

p.561 上から10行目

誤	平成23年度台風23号の豪雨（100人近い死者）など
正	平成23年度台風12号の豪雨（100人近い死者）など

p.580 図12-1

誤	●新居浜市 ▲四国中央市
正	●四国中央市 ▲新居浜市

(2019年6月5日までの正誤表)

p.31 上から3行目

誤	2007年7月25日に
正	2007年8月16日に

p.48 上から5行目

誤	落下中の雪の結晶に
正	落下中の氷晶等に

p.50 下から1行目 (追加)

誤	一番最後の行に以下の文章を追加。
正	降水があるが0.5mmに満たないときは、0.0mmと表記します。

p.89 上から 1 行目

誤	雲頂高度は最大で 3 (冬) ~4km (冬以外)
正	雲頂高度は最大で 3 (冬) ~ 5 km (冬以外)

p.102 表 1-11 上から 3 行目

誤	②雷光
正	② 電 光

p.105 下から 9 行目

誤	15km/s の同風向の風
正	15 m /s の同風向の風

p.131 上から 10 行目

誤	湿度の観測を行います、気温が -40°C 以下になると観測を行いません。
正	削除 (改定のため)

p.143 「●地上空気の持ち上げ方」の下から 2 行目

誤	2 度目の等飽和混合比線との交点
正	2 度目の 気温の状態曲線 との交点

p.145 下から 11 行目

誤	上層していますから
正	上 昇 していますから

p.145 下から 10 行目

誤	上昇ほど温位が高く
正	上 層 ほど温位が高く

p.146 上から 3 行目

誤	ほとんど吸収してくる
正	ほとんど吸収してく れる

p.154 本文：上から4行目

誤	降水の強度や分布や強度を知ることが可能です。
正	降水の強度や分布を知ることが可能です。

p.154 下から8行目

誤	パルス幅 $2.5\mu\text{m}$ (マイクロメートル) で、
正	パルス幅 $2.5\mu\text{s}$ (マイクロ秒) で、

p.162 下から3行目

誤	強い上層気流
正	強い上昇気流

p.164 下から6行目

誤	平均電波強度
正	平均受信電力

p.165 下から5行目

誤	平均電波電力
正	平均受信電力

p.169 上から6行目

誤	格子粒子の表面積を
正	降水粒子の表面積を

p.171 下から14行目

誤	目標の格子
正	目標の降水

p.172 コラムの上から1行目

誤	実況の観測地と比較して
正	実況の観測値と比較して

p.173 上から3行目

誤	平均電波電力
正	平均受信電力

p.173 上から 6 行目

誤	平均電波強度
正	平均受信電力

p.183 図 3-18

誤	
正	<p>右側の「弱」を「強」に訂正</p>

p.185 図 3-19

誤	
正	<p>右側の「弱」を「強」に訂正</p>

p.203 下から 7 行目

誤	電波の周波数偏移のずれ (かんたんにいえば…
正	電波の周波数偏移 (かんたんにいえば…

p.219 上から 6 行目

誤	赤外放線
正	赤外放射

p.222 上から 8 行目

誤	寒気の下降と下降流が強まります。
正	寒気の南下と下降流が強まります。

p.242 下から 9 行目

誤	波長が 1m~1 μ m、周波数が
正	波長が 1m~1mm、周波数が

p.259 「8 数値予報は鉛直 P 速度で鉛直流を表す」の上から 1 行目

誤	鉛直 p 速度で行います。
正	鉛直 p 速度で 表します 。

p.259 「8 数値予報は鉛直 P 速度で鉛直流を表す」の下から 5 行目

誤	なお、等圧面上（あるいは地上では）において
正	なお、 等高度面（地上でもよい） では

p.262 上から 2 行目

誤	成層圏の大気の状態
正	成層圏 や中間圏 の大気の状態

p.265 下から 3 行目

誤	2 倍の時間が必要です。
正	2 倍の 計算量 が必要です。

p.265 下から 2 行目

誤	空間処理に 4 倍
正	格子間隔半減 処理に 4 倍

p.295 下から 5 行目

誤	7 日間以内
正	2 週間 以内

p.302 青帯の見出しの上の※の一文

誤	活動度 1 以上
正	活動度 2 以上

p.303 図 6-3（左）：下から 1 行目

誤	収束性の被害根跡
正	帯状 で収束性の被害 痕跡

p.303 図 6-3（中央）：下から 1 行目

誤	発散性の被害根跡
正	発散性の被害 痕跡

p.303 図 6-3 (右) : 下から 1 行目

誤	一方向の被害根跡
正	一方向の被害 痕 跡

p.306 下から 6 行目

誤	雷ナウキャストにおいて
正	竜巻発生確度 ナウキャストにおいて

p.346 下から 6 行目

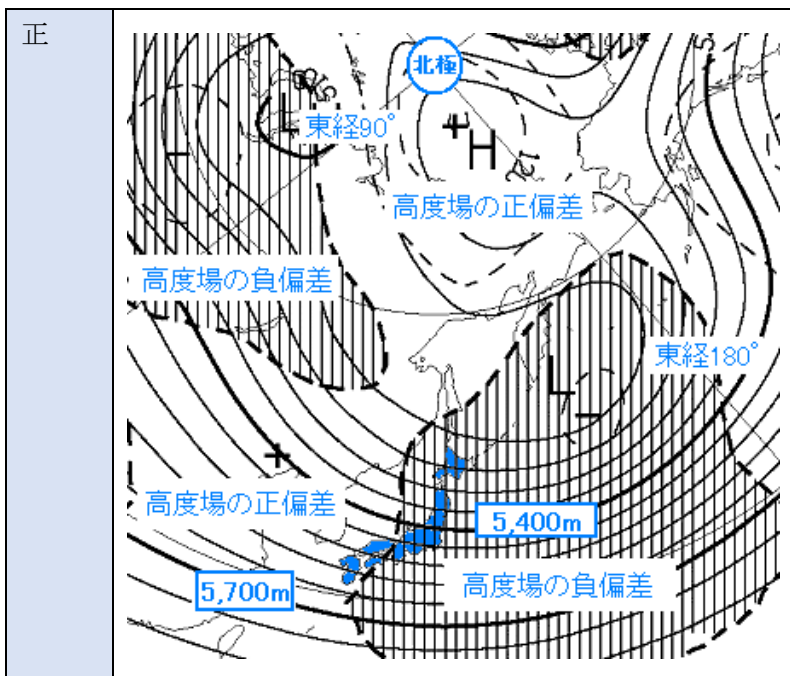
誤	相当温位が特に集中している領域は、
正	相当温位 線 が特に集中している領域は、

p.347 上から 4 行目

誤	相当温位は水蒸気密度に依存する
正	相当温位は水蒸気密度にも依存する

p.355 図 7-10 を差し替え

以下の図に差し替えをお願いいたします。



p.359 コラム 下から5行目

誤	日本周辺まで東の尾根が張り出し、
正	日本付近の東まで気圧の尾根が張り出し、

p.373 下から8行目

誤	この頃の着目点は、「季節的に残暑があるのか」「秋の深まりが早く気温が低いのか」「秋雨前線の影響はあるのか」などです。
正	この頃の着目点は、「前線の影響はあるのか」「秋の深まりが早く気温が低いのか」などです。

p.412 問1 選択肢⑤

誤	⑤ (a) = 30 (b) = 31
正	⑤ (a) = 30 (b) = 33

p.438 上から6行目

誤	地上面摩擦
正	地表面摩擦

p.447 試験のポイント 上から2行目

誤	暴風雨域
正	暴風域

p.466 上から6行目

誤	非常に降水強度が
正	非常に強い降水強度が

p.489 下から6行目

誤	上昇流域が
正	上昇流が

p.489 下から5行目

誤	下降流域が卓越
正	下降流が卓越

p.501 下から 5 行目

誤	西日本以西と東日本以西で
正	西日本以西と東日本で

p.521 「1 南岸低気圧の進路」タイトル

誤	1 南岸低気圧の進路
正	1 雷の種類

p.567 「3 異常天候早期警戒情報」の上から 5 行目

誤	異常天候早期警戒情報では、気温や降水量に関して発表する機会が多いのですが、冬季の日本海側の地方の降雪量についても発表されます。
正	異常天候早期警戒情報では、気温や降雪量（大雪）に関して発表されます。

p.590 下から 4 行目

誤	地衡風＞低気圧性曲率という
正	地衡風＞低気圧性傾度風という

以上